

【統合分野】

科目名 在宅看護概論		担当者	実務経験
		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 在宅看護が必要な療養者とその家族の理解及び在宅療養に必要な制度やサービスについて学ぶ。			
【目標】 1. 在宅看護の対象について理解できる。 2. 在宅看護の目的について理解できる 3. 在宅看護の特徴について理解できる。 4. 在宅ケアの連携とマネジメントについて理解できる。 5. 在宅ケアを支える制度と社会資源について理解できる。			
【授業内容】 1. 在宅看護とは 2. 在宅看護ケアと在宅看護 3. 在宅療養の成立条件 4. 在宅療養における看護の役割 5. 在宅看護の特徴 6. 在宅看護と家族 7. 在宅ケアの連携とマネジメント 8. 在宅ケアを支える制度と社会資源			
【教授方法】 講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 ナーシンググラフィカ21 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 国民の福祉の動向 厚生統計協会 …… 高齢社会白書 内閣府 ……使用時指示			
【評価方法】 出席 ・ 筆記試験			
【備考】			

科目名 在宅看護援助論 I		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 訪問看護での情報収集の仕方、看護過程、訪問看護時のマナーなど訪問看護の基本について学ぶ			
【目標】 1. 在宅看護の利用の流れについて理解できる。 2. 訪問看護の看護過程の特徴について理解できる。 3. 退院調整・初回訪問・継続看護について理解できる。 4. 訪問時のマナーとコミュニケーションについて理解できる。 5. 在宅療養者への日常生活行動の援助について理解する。			
【授業内容】 《田中》担当 1. 訪問看護利用の流れ 2. 訪問看護の実際と記録 3. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 4. 訪問看護での看護過程 5. 退院調整・継続看護 《高橋》担当 6. 訪問時のマナーとコミュニケーション 7. 訪問看護と感染症 8. 在宅看護と環境 9. 在宅における日常生活行動の援助			
【教授方法】 講義 グループワーク			

【使用テキストと参考文献】

《田中》

ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

医療福祉総合ガイドブック 医学書院

高齢社会白書 内閣府 ……使用時指示

国民の福祉の動向 厚生統計協会 ……使用時指示

《高橋》

ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版

ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版

写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ

家族看護学を基盤とした 在宅看護論 II 実践編 第4版 日本看護協会出版会

【評価方法】 出席 筆記試験

【備考】

科目名 在宅看護援助論Ⅱ		担当者	実務経験
		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	15時間/1単位/7回	講義・演習	
【概要】 医療依存度の高い在宅療養者に必要な援助について学ぶ			
【目標】 1. 医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助について理解できる。			
【授業内容】 1. 医療依存度の高い在宅療養者とその家族への援助 ・フィジカルアセスメント ・胃瘻・経管栄養管理 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸療法、気管カニューレ ・吸引・吸入 ・在宅中心静脈栄養 PORT ・褥創のケア 2. 在宅ターミナルケア 3. 食事と服薬管理			
【教授方法】 講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 家族看護学を基盤とした 在宅看護論Ⅱ実践編 第4版 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ			
【評価方法】 出席 参加度 筆記試験			
【備考】			

科目名 在宅看護援助論Ⅲ		担当者	実務経験
		専任教師 保健師・ケアマネージャー他	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次 ・ 後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 事例を通して、訪問看護の実際について学ぶ。 また、行政保健師からの事例の講義を受け、地域における保健の動向と特徴を理解する 既習の在宅看護論を総合的に学ぶ機会にする。			
【目標】 1. 地域包括ケアシステムと各サービスについて理解できる。 2. 地域における保健の動向を理解できる。 3. 在宅福祉チームの一員としての看護師の役割について理解できる。			
【授業内容】 1. 在宅福祉サービスについて 2. 地域で生活する上で使える制度やサービスについて 3. 他職種との連携と必要な看護 4. 長岡地域の保健の動向と保健活動			
【教授方法】 講義 グループワーク			
【使用テキストと参考文献】 ナーシンググラフィカ21 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 医療福祉総合ガイドブック 医学書院 写真でわかる訪問看護 インターメディカ			
【評価方法】 出席 グループワーク参加度、グループワーク資料、レポート、課題			
【備考】			

科目名 看護研究と看護管理		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院看護管理者	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・前期/後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】			
<p>看護研究では、看護ケアの質の向上に向けて、看護研究をおこなう意義と方法について学ぶ。対象への看護において得られたデータを、文献を用いて考察することを通して、看護を探究するための能力を養う機会とする。また、対象への説明と同意、論文における匿名性の保持など、看護研究の一連の過程における、対象の権利および尊厳を守るための倫理的配慮のあり方について考える。さらに、成果に関するプレゼンテーションと意見交換、学生相互で論文を批判的に検討するピアレビューにより、自己開発に向けて継続的・自律的に学習していくために有効な一方法を学ぶ。</p> <p>看護管理では、看護管理システム(人・物を整えることとそれらの効率的な管理、看護管理過程含む)、組織およびリーダーシップについて学ぶ。また安全管理のためのリスクマネジメント、緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方についても理解を深める内容とする。</p>			
【目標】			
<p>1.看護ケアの質の向上に資する看護研究の方法について知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護研究とEBNについて理解する。 2)看護研究における倫理指針と研究計画書について理解する。 3)看護研究の方法について知る。 4)研究疑問と文献検索をおこなう。 5)研究論文を批判的に検討する。 <p>2.看護サービスにおける管理について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護管理システムについて理解する。 2)組織とリーダーシップについて理解する。 3)人的資源管理、物的資源管理、情報管理について理解する。 4)安全管理とリスクマネジメントについて理解する。 5)緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方を知る。 			
【授業内容】			
<p>1.看護研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)看護研究とEBN 2)看護研究における倫理指針と研究計画書 3)看護研究の方法 (1)概念枠組みと変数 (2)研究デザイン 			

<p>4) 研究疑問と文献検索</p> <p>5) クリエイティブとクリエイティブの実際</p> <p>2. 看護管理</p> <p>1) 看護管理システム</p> <p>2) 組織とリーダーシップ</p> <p>3) 看護ケア提供システムと看護単位</p> <p>4) 人的資源管理(労働時間、勤務体制、技能形成とキャリア開発システム)</p> <p>5) 物的資源管理(施設設備、物品供給システム)</p> <p>6) 情報管理(情報の種類、守秘義務、情報開示への対応)</p> <p>7) 安全管理とリスクマネジメント</p> <p>8) 緊急時および大規模災害発生時の看護管理のあり方</p>
<p>【教授方法】</p> <p>講義・グループワーク</p>
<p>【使用テキストと参考文献】</p> <p>【看護研究】</p> <p>南裕子:看護における研究, 日本看護協会出版会.</p> <p>日本看護協会看護に活かす基準・指針・ガイドライン集 2018.</p> <p>松本孚:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社.</p> <p>【看護管理】</p> <p>系統看護学講座専門1 基礎看護学[1]看護学概論, 医学書院.</p>
<p>【評価方法】</p> <p>看護研究: ケーススタディ 論文評価</p> <p>看護管理: 筆記試験</p> <p>看護研究、看護管理それぞれ 60 点以上を持って単位認定とする。</p>
<p>【備考】</p> <p>看護研究(ケーススタディ)は、臨地実習の指定された実習場所でおこない、論文を作成し、提出する。</p>

科目名 看護安全管理論		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院 認定看護師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前・後期	30時間/2単位/15回	講義・演習	
【概要】 <p>医療安全の基盤となる考え方、チーム医療の中で医療安全における看護師の果たすべき責任と、看護倫理に基づいた行動について学ぶ。また、事例検討を通して患者・家族・医療者の心情の理解、責任ある看護倫理に基づいた行動について考える。</p> <p>事故防止の考え方と、診療の補助業務・療養上の世話業務・共通する業務での危険、各業務における事故と事故要因、事故防止のためのリスク査定、それを回避するための具体的な方法について学ぶ。また、事例検討・医療安全教育ビデオの視聴を通して、事故要因および事故防止のための行動を考える。</p> <p>注射および静脈血採血・無菌操作の演習を通して、診療の補助業務を行ううえでの事故防止や感染予防について学ぶとともに、安全・安楽で確実な技術を身につける。</p> <p>感染対策の基本的な考え方や、感染対策の実際を学ぶ。</p>			
【目標】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の果たすべき責任と、看護倫理に基づいた行動について理解する。 2. 事例検討を通して、責任ある看護倫理に基づいた行動をとるための方向性を出す。 3. 事故防止の考え方と、国・組織などの様々な取り組みについて理解する。 4. 診療の補助業務・療養上の世話業務・共通する業務での危険を理解する。 5. 各業務における事故とその要因、事故防止のためのリスク査定、回避するための具体的な方法について理解する。 6. 皮下注射および静脈血採血・無菌操作を、対象の状態に合わせて安全・安楽かつ確実に実施する。（技術演習・技術試験） 7. 事例検討・医療安全教育ビデオの視聴を通し、事故要因を明らかにするとともに、事故防止に向けて自己の課題と方向性を明らかにする。（KYT） 8. 感染対策の基本的な考え方をふまえ、感染対策の実際を理解する。（認定看護師） 			
【授業内容】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 法的責任：看護の専門職としての責務・医療過誤と法的責任・看護学生に求められる責任・注意義務・看護教員の責任 事例検討 2. 看護倫理：倫理の特性・法と倫理・専門職の倫理・患者の権利・看護倫理の原則 事例検討 			

3. 医療安全管理：医療事故・人間の特性・事故防止の考え方・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因
 診療の補助業務に伴う事故防止・療養上の世話における事故防止
4. 技術演習および技術試験：皮下注射・静脈血採血・無菌操作（技術試験）
5. 医療安全教育ビデオの視聴・検討
6. 感染対策：基本的な考え方・標準予防策の構成要素（最新情報）・院内での実際

【教授方法】

一斉講義 グループワーク 技術演習

【使用テキストと参考文献】

<看護安全管理論>

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院

川村治子 著 医療安全ワークブック第3版 医学書院

新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メジカルフレンド社

日本看護協会監修 新版 看護師の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理一

日本看護協会出版会

東京医科大学看護専門学校編 よくわかる看護師の倫理綱領 照林社

田村やよひ著 私たちの拠りどころ 保健師助産師看護師法第2版 日本看護協会出版会

<技術演習 技術試験>

該当する基礎看護技術の講義時使用テキスト、資料など

<感染管理認定看護師>

新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メジカルフレンド社

【評価方法】

<看護安全管理論> 客観試験 KYT 課題レポート

<技術演習>

・皮下注射 静脈血採血 ー 出席および課題レポート

・無菌操作 ー 技術試験

【備考】

KYT 演習及び技術演習、技術試験については、後日提示します。

科目名 看護の統合と実践		担当者 専任教師	実務経験 ○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・前期～後期	30時間/1単位/15回	講義・ 演習	
【概要】			
<p>医療システムの中の危険要因と事故防止のための知識、技術を統合して、対象・家族および医療従事者の安全と安楽を確保し、良質な看護を提供するための判断力と実践力を養う。また、自己モニタリングを働かせ、リスク感性を磨くことができるように、実践に即したハイリスク環境下(過緊張・タイムプレッシャー・業務中断等)で、総合的な判断・対応を体験することにより、看護を安全におこなうための方法を考える。さらに直接的・間接的な体験から、専門職としての責任感と倫理観を養う。</p>			
【目標】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険を予測し、回避するための方法を理解し、事故防止のための行動がとれる。 2. 看護技術における事故防止のための基礎的知識を身につける。 3. 実践に即した看護技術演習を通して、ハイリスク環境下で安全な看護を提供するための判断力と実践力を身につける。 4. 自分も事故をおこす可能性があることを実感する。 5. 自己の行動傾向を知り、事故防止のための今後の課題と方向性を明確にする。 			
【授業内容】			
<p>KYT演習1(4h):実習Ⅱ前(4月) 医療安全教育ビデオを通して事故要因を理解する KTY演習2(4h):実習Ⅵ後(10月) ①医療安全教育ビデオを通して事故要因を理解する ②ヒヤリハット体験の事例分析 KTY演習3(2h):統合実習前(11月) 事故防止のための基礎的知識の確認</p> <p>看護技術演習(20h):12月</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象の疾病や状態を理解し、対象に必要な援助を判断する ② 対象の状態にあわせて、安全・安楽に援助を実施する ③ 安全な看護を提供するための自己の課題と方向性を明確にする 			
【教授方法】			
<p>グループワーク 演習</p>			

【使用テキストと参考文献】

医療安全教育ビデオ

川村治子 医療安全ワークブック 医学書院

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院

【評価方法】

出席状況 グループワークへの参加状況 レポートの提出

【備考】

実習を通して KYT ノートの記載をする。

KYT ノートの提出:実習Ⅴ、実習Ⅷ終了後の2回提出

自己の考え方や体験の幅が広がるようにグループワークを取り入れる。

科目名 災害看護論		担当者	実務経験
		専任教師 長岡赤十字病院・日本赤十字社新潟県支部職員	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間/1単位/15回	講義・演習	
【概要】 あらゆる状況下において、人間の尊厳と権利を尊重し、苦痛を軽減することが赤十字の使命である。災害看護論では、災害医療論をふまえ、大規模災害により発生する傷病者や家族、大きな影響を受ける様々な対象に対して看護をおこなえる知識・技術を身につける。中でも、災害救護に必要な技術として、トリアージ(start式、PAT)、フィジカルアセスメントを基盤とした外傷評価技術、被災者の精神的支援をはかる心のケアのあり方を中心に学ぶ。 災害看護論演習では、災害看護・医療に関する知識・技術を統合し、災害急性期の救護所設営と傷病者の受け入れ、心のケアを含む看護を実践する。			
【目標】 1. 災害・災害看護の概念、災害が及ぼす影響を理解する。 2. 日本赤十字社が国内救護を行う法的根拠を理解する。 3. 赤十字の国内救護活動の目的、ならびに活動の実際について知る。 4. 赤十字の国際救援活動について興味・関心を持つ。 5. 災害に備えての心構えをもつ。 6. 災害救護実践訓練を通し、災害看護に必要な技術・態度を身につける。			
【授業内容】 1. 災害の歴史と災害看護の定義 2. 災害が人々の健康・生活・社会(社会の脆弱性・情報伝達など含む)に及ぼす影響 3. 赤十字が災害救護をおこなう法的根拠、災害時の社会制度 4. 様々な場における様々な対象への災害時の看護(異文化看護含む) (病院・避難所・車の中/要援助者:慢性疾患、高齢者、精神科治療を要する人/妊産褥婦・新生児・乳幼児・子ども/その他の弱者:外国人、視聴覚障がい者/遺体と家族) 5. 被災者のストレス反応とその経過、避難所における心のケア 6. 災害救護技術 (外傷評価技術・心のケア技術・限られた資源の中での看護援助の工夫等) 7. 災害医療・看護における倫理的課題 8. 演習(災害急性期の救護所設営と傷病者の受け入れ/心のケア)			
【教授方法】 講義およびグループワーク、演習			
【使用テキストと参考文献】 日本赤十字社事業局看護部：災害看護学・国際看護学，医学書院。			
【評価方法】 筆記試験 参加度			
【備考】			

科目名 在宅看護概論実習		担当者	実務経験
		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・後期 3年次	90時間/2単位	実習	
【概要】 地域で生活する人とその家族について理解し、「生活の場」における看護ができる基礎的能力を養う。			
【目標】 1. 地域包括ケアシステムについて理解する。 2. 地域で生活しながら療養する人とその家族について理解する。 3. 在宅ケアチームとその連携について理解する。 4. 訪問看護師に必要な基本的態度を身につける。			
【授業内容】 1. 在宅看護論実習Ⅰ（1単位） 在宅福祉サービスの実際を通して、地域で生活する上で必要な制度やサービスについて理解する。 2. 在宅看護論実習Ⅱ（1単位） 体験を通して地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅ケアにおける看護の特徴と役割について学ぶ。			
【教授方法】			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 出席・実習態度(10点)・実習レポート(90点)			
【備考】 詳細は各要項参照			

科目名 看護の統合と実践 統合実習		担当者	実務経験
		専任教師	○
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
3年次・後期	90時間/2単位	実習	
【概要】 一人の対象への看護を展開する能力を基盤に、看護チームの一員として複数の対象を受け持つ看護師とともに行動することを通して、多重業務における優先順位の決定・時間管理と安全に援助する方法を知り、保健医療福祉チームにおける病棟看護師の役割について考える。また実習を通して、看護チームの一員としてのメンバーシップのあり方を考え、対象の尊厳を守り自律性をもつ看護専門職に向けての自己の課題を導きだす。さらに、統合実習を含め、これまでの実習における看護実践の中で考えた自己の看護観を構成する。			
【目標】 1. 複数対象に対し安全かつ継続した看護をおこなう方法について述べる。 2. 看護チームの一員としてのメンバーシップのあり方について述べる。 3. 地域での療養へのシームレスな移行を支援するための保健医療福祉チームにおける病棟看護師としての連携のあり方について考える。 4. 対象の尊厳を守り自律性をもつ看護専門職に向けての自己の課題と方向性を述べる。 5. 看護実践を通して考えた自己の看護観と今後の方向性について述べる			
【授業内容】 実習は、1)目標カンファレンス、2)複数受け持ちシャドーイング実習、3)看護技術練習、4)夜間シャドーイング実習、5)グループカンファレンスにて構成される。詳細は、看護の統合と実践(統合実習)実習要項を参照すること。			
【教授方法】			
【使用テキストと参考文献】			
【評価方法】 ○講義まとめ(10点)○統合実習レポート1『統合実習の学びと今後の看護実践にむけての自己の課題と方向性』(60点)○統合実習レポート2『私の看護観』(30点) 統合実習レポート1 40点以上、統合実習レポート2 20点以上(合計60点以上)をもって、2単位認定する。			
【備考】			